

# 次年度（現中学２年生から） 各高校選抜方法

下記選抜方法の見方です。

はじめに

次年度からの公立入試は共通選抜と特色選抜の2つの方法で各高校が合否を決めます。

ポイント

①共通と特色の優先順位（初めにどちらの選抜で合格をきめるかを見ましょう）

例：共通→特色（この場合、共通選抜の方法で合格者をまず決めてから、特色選抜で最後の合格者を決めていく方法・共通選抜優先のパターンです。）

②特色選抜でどのくらいの割合の合格者を出すのか、またその方法を見ましょう。

例：特色選抜募集人数32名（内申点195点・換算率実技全学年2倍と学力検査500点の合計695点満点で決める）

③特色選抜で各高校の換算率（0.25倍～2.0倍で何を重軽視するのか）

例：国語・数学・英語の内申点のみ換算率2倍←国数英重視

## 改めて共通選抜について

発表された高校の共通選抜は完全に中学1年生から中学3年生までの内申点195点・学力検査500点のみで合否を決めます・点数のみです。

改めて、書いたのは、発表されたほとんどの高校は共通選抜優先になっているからです。詳しくは、このホームページの前回の「共通選抜と特色選抜」をご確認ください。

## 発表の高校(一部)の選抜方法を紹介します。県教委参照

### 広瀬高校

- ①合格の優先：共通168名(全体の6割)を決め、次に特色112名(全体の4割)；共通優先型
- ②共通：内申195点・学力検査500点で(4:6の割合の相関図をつくる)
- ③特色：内申210点(国数英の3年間2倍・社理と実技の1年生と2年生1倍・3年生のみ2倍)学力検査250点満点(すべての科目で換算率0.5倍)さらに面接40点、合計500点で決める  
要約：特色の4割合格は大きい・3年次の内申の換算率が大きいなど3年次が重要になる。

### 泉館山高校

- ①合格の優先：共通252名(9割)を決め、次に特色で28名(1割)；完全共通優先型
- ②共通：内申195点・学力検査500点で(3:7の相関図をつくる)
- ③特色：内申195点(全学年5科目の内申と全学年実技を2倍)学力検査500点の合計695点  
で合否を決める。  
要約：中学1年から中学3年までの学力が試される。つまり進学校らしい選抜方法

### 仙台第二高校 前期入試の募集は96名(3割)ですが

- ①合格の優先：共通288名(9割)を決め、次に特色32名(1割)；完全共通優先型←ココ重要
- ②共通：内申195点・学力検査500点で(3:7の相関図をつくる)
- ③特色：内申195点(共通と同じ・つまり館山高同様)・学力検査500点の合計695点  
要約：ほぼ学力のみで合格が決まる。特色は英検や内申の内容を見て判断(泉館山も同様)

### 仙台高校

- ①合格の優先：共通224名(8割)を決め、次に特色で56名(2割)；共通優先型
- ②共通：内申195点・学力検査500点(4:6の相関図をつくる)
- ③特色：内申220点(1年生と2年生の5科目を1倍・3年生を2倍。さらに実技4科目は全学年で2倍)に学力検査500点を加えた合計720点で合否を決める。  
要約：基本、学力勝負だが3年時の頑張りを多少、大きく評価しようということ。

### まとめ(重要)

- ①次年度(現中学2年生から)から公立入試は1回のみチャンスですよ。ということです。
- ②中学1年生の内申でも重要
- ③共通選抜が優先される入試がほとんどです。特色から合格者を優先に出す高校はほとんどありません。例：宮城野高校の美術科など数高のみ。
- ④共通(学力のみの判断)優先ですので、これまでより厳しい(競争)受験になりそうです。
- ⑤保護者様は正しい情報を知ってください。安易に特色選抜を扇動するような塾があるようですが・・・ 事実は上記のとおりです。正しい情報を得ることは生徒にとって重要です。これは学習塾も同様で正しく情報を得て分析する能力、そして正しく伝えることは重要です。